

(電子メール施行)
農技第1357号
令和3年8月12日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察注意報 第2号を發表します。

ハイマダラノメイガの多発傾向がみられています。本種は、アブラナ科野菜の生育初期に生長点付近を食害し、深刻な被害を与えるため、育苗期や定植後の防除対策を徹底するよう指導願います。

令和3年度病害虫発生予察注意報 第2号

ハイマダラノメイガの発生状況と防除対策について

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 1 対象作物 | アブラナ科野菜 (キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン等) |
| 2 病害虫名 | ハイマダラノメイガ (別名: ダイコンシンクイムシ) |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 8月中旬~10月下旬 |
| 6 発生状況について | |

- (1) 県立農林水産技術総合センター (加西市) で実施しているハイマダラノメイガの誘致植物^{※1} (クレオメ) による調査において、7月第1週以来、花枝^{※2}への寄生率が平年より高く推移している (図)。7月第4週 (7月27日) の調査では、寄生率が47.0%と、平年 (14.0%) を大きく上回り、多発年であった昨年 (52.0%) とほぼ同等となり、その後も平年より高い状態が続いている。
- (2) 向こう1ヶ月の近畿地方の気象予報 (8月5日発表) では、気温が平年より高く推移すると予想されており、本種の増殖に好適な条件であることから、発生はさらに増加すると考えられる。
- (3) 今後、野菜類の育苗や本圃への定植 (ダイコン等の直播栽培を含む) が始まることから、対象作物での被害が拡大することが懸念される。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝 (花枝) を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

7 本種の特徴について

本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。成虫（写真1）は体長約10mmで、生長点付近に1卵ずつ産卵する。幼虫は、作物の育苗期～本圃栽培初期では、生長点付近に食入し、葉を綴り合わせて食害する（写真2）。

生育初期に食害されると成長が止まり（写真3）、キャベツ等の結球野菜では、食害を受けた株は結球しなくなり（写真4）、商品価値を失うため、1頭でも株に存在すれば減収につながる。

8 防除上の留意点

(1) 加害を確認してからの対策では手遅れとなるので、発生盛期である8月中旬～9月下旬頃に育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを前提とした予防的防除に努める。

(2) 寒冷紗や防虫ネット、不織布による被覆は、成虫の飛来・産卵防止に効果がある。防虫ネットの目合いは、2×4mm以下で十分な防除効果が得られる。被覆資材の利用にあたっては、内部が高温になりすぎないように注意する。成虫は夜間に活動（産卵）するので、黄色灯の利用も飛来・産卵防止効果が期待できる。

(3) 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の降雨などの条件により、十分な効果が得られないこともある。本圃での発生状況に注意して、必要に応じて薬剤散布を実施する。

(4) 薬剤散布を行う場合、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を遵守する。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

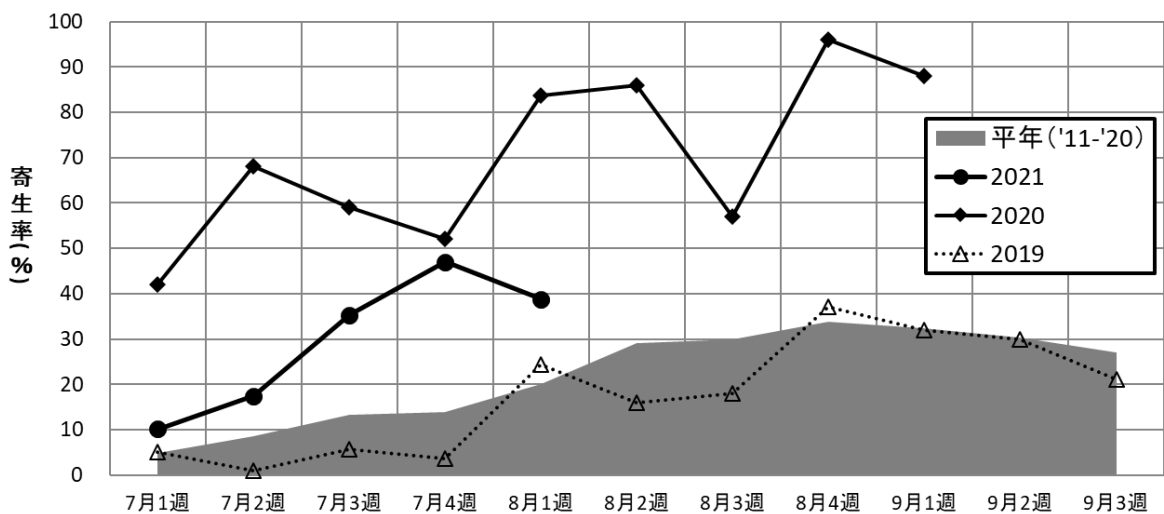


図 誘致植物（クレオメ）の花枝におけるハイマダラノメイガ寄生率の推移



写真1 ハイマダラノメイガ成虫
(体長は約10mm)



写真2 クレオメに寄生する幼虫
(生長点の食害)



写真3 食害を受けたキャベツ
(定植直後)



写真4 食害を受けたキャベツ
(正常に結球しない)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222